

開催日時	令和3年3月29日（月）10時から12時まで
参加者	委員：8人(1人欠席) 事務局：2人 その他：4人（高齢者福祉課）
場 所	浜松市福祉交流センター32会議室
内 容 (抜粋)	<p>1. 情報提供</p> <p>(1) 浜松市の生活支援体制づくりに対する考え方について</p> <p>浜松市高齢者福祉課から生活支援体制づくりにおける考え方(概要や予算、補助金など)について、資料を基に情報提供した。</p> <p>【意見・質問など】</p> <p>意見：(生活支援コーディネーターより)協議体の議論の中でニーズ調査や研修など費用が必要な活動を希望する声があれば、まずは生活支援コーディネーターにご相談いただきたい。</p> <p>(2) 令和2年度 第2層協議体の進捗状況について</p> <p>生活支援コーディネーターより、各圏域の進捗状況や課題について資料を基に共有を行った。</p> <p>【意見・質問など】</p> <p>意見：地域課題を明確にしたテーマで協議を進めている圏域ばかりではないが、どのような状況か。また、支援について協議していく際、各圏域で地域課題の傾向が異なると思われるため、一概に全域一律の支援が必ずしも良いとは言えないと考える。理由としては、例えば金銭面については、課題によって支援に必要な費用などに差が生じると考えるからである。各地域でどのようなニーズがあるか、またその違いを認識したうえで、支援のあり方を明確にしていく必要があると考える。</p> <p>回答：進捗状況に合わせ広義なテーマでざっくりばらんな意見交換をしている圏域もある。地域課題としては、もちろん違いも見られるが、居場所や買い物支援など共通する課題も見られる。ニーズや支援のあり方を明確にするにあたり、まずは各委員から挙げられるニーズはもちろん、協議体外で把握したニーズも含め生活支援コーディネーターがアンテナを広げ、拾っていくように留意したい。その際、認知症やゴミ問題など当事業だけでは支援が困難なニーズについても関係機関や団体と連携していけるように努める。</p> <p>意見：色々な意見が交わされているため、第2層協議体で拾い上げられた地域課題などを地域に対していかに発信していくかが重要だと考える。例えば、高丘圏域では、聖隷クリストファー大学の理学療法を学ぶ学生が地域に住む高齢者の活動という視点で研究も含めて協議体に関わっている。市内にはいくつもの大学が所在するので、大学や学生に参入してもらい、その地域をどのように変えていくことができるのかを考えられれば良いと考える。また、そのような学生の発表の場を設け、地域住民への情報発信の場としていくことも考えられる。</p>

回答：前回の協議体でも触れられた通り、協議体での協議内容をどのように地域に発信していくかは課題として挙がっている。大学や学生などの参画はサービス創出にあたって重要であるため、第2層生活支援コーディネーターに働きかけていくよう努める。

(3) 地区社会福祉協議会の取り組みについて

会長より、地区社会福祉協議会をはじめとする地域での福祉活動の取り組みや重要性について、資料を基に共有した。

【意見・質問など】

意見：地区社会福祉協議会の活動は大変重要なものではあるが、民生委員・児童委員が兼務して、様々な福祉活動を担っていることが多い現状が見られる。民生委員・児童委員など特定の主体だけでなく、新たな人的資源の掘り起こしも含め多くの担い手を確保していく必要があると考える。その際には、それぞれの主体の本来の役割を踏まえて、関わり方や体制のあり方について検討していく必要があると考える。

意見：各主体の本来の役割を考える際には、一律に関わり方も決めるのではなく、地域資源をはじめとする地域の実情に合わせて検討していく必要があると考える。また、最初から役割分担を決めるというよりは、地域のニーズに合わせてどのような関わり方で、またどのような体制で取り組んでいくか、各主体が同じ土俵で協議していくことが協議体としても望ましいのではないかと考える。

回答：当事業の目的としても、より多くの主体に参画を呼びかけていくことが挙げられる。生活支援ボランティア養成講座などを通して、この間、活動されている方より積極的な参画だけでなく、これまで事業に関わりがなかった方など新しい人材の発掘に繋げていくよう努める。

意見：地域での福祉活動を考えていく際には、市内に、自治会や地区社会福祉協議会を通じて、ニーズ調査を実施するのが望ましいと考える。

回答：前回の協議体で挙げられたような第1層協議体からの提言をまとめていくことなどをはじめ、当事業の取り組みを進める際には、ニーズ調査といった裏付けが必要だと思われるため、検討していく。

意見：ニーズ調査をするとのことであるが、大前提として、今後当事業を前進させていくためには、第1層でニーズ調査などに基づく大方針を決めて第2層や第3層として機能している地区社会福祉協議会に下ろしていくという方向性が望ましいか。それとも、地域によっては地区社協地域福祉計画というものを立てているところもあるように、第3層として機能している地区社会福祉協議会の活動を尊重しながら、その中でできないことを第2層協議体で協議し担っていくなど下から上に上げていくという方向性が望ましいか。これは、報告にあったように地域によって実情は違うものの共通点も見られるため、第2層生活支援コーディネーターからの地域課題などの報告を踏まえながら、第1層で扱う事項のすり合わせや見立てをしていくという手法になると思われる。

回答：当事業の構造上、第1層と第2層は見ている地域の範囲が異なるというだけであり、上下関係にあるのではない。並列にあり、連携していく関係である。第1層において今後提示していく重点目標についても、第2層も同じ方針・目標に基づいて活動していくということにはならないと思われる。ただそれらを参考にして、各地域がそれぞれの実情に沿って活動していくことは十分考えられる。その意味では、第1層は第2層から共有された課題を受け、見立てをつけて協議を深めていくという認識で問題ないか。

回答：(全委員より) 意義なし。

意見：浜松市社会福祉協議会の課題とも言えるが、当事業を進めていくにあたり、地区社会福祉協議会をどのように支援していくか、またCSWなどとどのように連携していくのかの整理も不可欠だと考える。例えば、有名無実化している地区社会福祉協議会には、第2層協議体やCSW等が主体となり、地区社協支援計画のようなものを立て、戦略的にフォローアップ、ボトムアップしていくことが想定される。そのうえで、当事業でどのようなことができるのかを検討していくのも有効であると考えます。

意見：地区社会福祉協議会の支援のあり方は今後このような場を活用して協議していく必要があると思われる。例えば、浜松市社会福祉協議会においては、地区社会福祉協議会に補助金を交付しているが、補助金を交付するだけで地域の福祉活動が円滑に進むわけでない。交付を受けた地区社会協議会に対し、最低限の活動内容など規定やガイドラインを設けるなどを想定している。

回答：(浜松市社協より)生活支援体制づくり事業の切り口だけでなく、浜松市社会福祉協議会の活動としてどう支援していくか検討に努める。

回答：問題提起された地域課題の抽出や、担い手の発掘、サービス展開にあたっての役割分担などはまさにコーディネートが求められる事項である。全国的にも事例やノウハウが蓄積されつつあるため、生活支援コーディネーターも積極的に情報収集し、地域課題の解決に資するよう努めていきたい。

2. 協議事項

(1) 浜松市生活支援体制づくり第1層協議体の重点目標について(案)

生活支援コーディネーターより、この間の課題や提案を今後の重点目標として整理した資料を基に、今後の方向性について協議を行った。

【意見・質問など】

意見：仕組みづくりも大切だが、そもそもの基盤として地域住民に当事業の背景をはじめ必要性を理解、つまり我がごととして捉えてもらうことが不可欠だと考える。担い手の意識が変わらない限り、仕組み自体の存続も危ぶまれると思われる。1層として仕組みづくりと併せて、ニーズ調査などを通して事業の必要性の裏付けを図り、当事業への参画を促す方法についても協議していく必要があると考える。

意見：担い手の確保・養成を考える際、ボランティア養成講座の内容の方向性がこの

間、変化がないと感じる。日常生活の困りごとに関するボランティア活動だけでなく、もっと裾野を広げて、より多くの方が活躍できる場を設けていくことが必要だと考える。例えば、退職者が現役時に企業で身につけた技術など、個人特有のスキルを活かし、本人が参加したいと思うような活動を模索していく必要があると考える。

意見：浜松市に多く設置されている地区社会福祉協議会を活かすことも大切だが、市内はNPO法人も盛んにあり、実際、介護予防・日常生活支援総合事業生活支援（通所型サービスB）に取り組んでいるNPO法人もあるため、NPO法人や民間企業の力を活かしていくことも重要だと思われる。また、それを1層でも2層でも、どのように連携を図っていくかの協議を深めていく必要がある。

意見：介護保険など既存の枠組みではできないことを意識し、民間の力を活用することに留意する必要がある。

意見：担い手不足解消のためには、資金面での支援も有効であると思われる。どこに、どのように支援していくか協議していく必要があると考える。

意見：三方原圏域で実際に協議されていることだが、どのようなボランティアが必要とされているかという視点でもニーズ調査をするのも重要である。そのニーズを基にどのようなボランティアを求めているか具体的にリストアップ・表記して、活動者を募集することで、人材の発掘・困りごとの解消・生きがいの創出がなされていくと考える。特に、ボランティア登録から実際の活動まで速やかに運ばなければ、活動者の意欲が低下してしまうため、それを防ぐことにも繋がる。また、定年退職を目前とした人に焦点を当て、退職後は地域活動への移行を誘導していけるような講座名でボランティア養成講座を展開していくことも有効と考える。

意見：地域における担い手不足解消やサービス展開に向けては、生活支援コーディネーター・CSW・地域包括支援センターを含む行政職員などの専門職で、ステアリンググループをつくり協議を行い、対応について方針を定めていく必要性を感じる。

意見：地区社会福祉協議会における地域たすけあい支援事業でシルバー人材センターのようなノウハウを作り上げ、少人数の地域住民同士で助け合えるシステムができれば良いと考える。

意見：シルバー人材センターも人材不足に陥っているため、地区社会福祉協議会に固執せず、シルバー人材センターへの登録を促していく方法も考えられる。

意見：提言やモデル図の作成にあたって「藤枝市における庁内他部局や関係機関等との連携による生活支援の取組」のアイデアや見せ方を参考にしていくとのことだが、この間の意見を踏まえ、この中に地区社会福祉協議会の立場を盛り込む必要があると考える。

意見：やっとこのような方向性やモデル案の提示まで協議が進んだ。これを実際に機能させていくための取り組みが不可欠である。少なくとも、このような方向性

やモデルをオープンにし、第1層と第2層、第2層と地区社会福祉協議会などの第3層の計画と取り組みが連動していくことがなければ実現しない。その点を生活支援コーディネーターやCSW、地区センターなど浜松市社会福祉協議会内部において留意して当事業を進めていただきたい。

意見：各圏域で難しさを感じていることに対して、支援方法を協議していくことも重要だと思われる。

質問：（生活支援コーディネーターより）浜松市生活支援体制づくり第1層協議体の重点目標の内容自体は、資料3の通りで問題ないか。

回答：（全委員より）意義なし。

【まとめ】

- ・地域住民に当事業を我がごととして捉えてもらい、当事業への参画を促すための取り組みについて協議する。具体的には、ニーズ調査など当事業の必要性の裏付けを図り、理解を深めるなどを検討していく。なお、ニーズ調査については、第1層協議体で提言をまとめていく際の裏付けを図っていくことも留意する。
- ・当事業をはじめ地域課題の解決に向けて、専門職との連携を図る。
- ・浜松市における生活支援体制整備事業のモデル図を作るだけでなく、それを有効に機能させるために、各主体間の連携などを促す取り組みや仕組みを構築していく。
- ・担い手の確保や養成のためにボランティア養成講座などのあり方を協議していく。

【令和3年度 浜松市生活支援体制づくり第1層協議体の主な協議事項】

- ・ニーズ調査の内容や手法について協議する。
- ・浜松市における生活支援体制整備事業のモデル図の構築に向け、それを有効に機能させるための、取り組みや仕組みについて協議する。

3. 報告・連絡事項【意見・質問など】：特に無し。

（1）生活支援フォーラム（住民主体の移動支援説明会）について

（2）生活ボランティア養成講座（運転ボランティア養成講座、住民主体による生活支援セミナー）について

（3）協議体進捗状況の共有について

生活支援コーディネーターより、講座の実施状況について、資料を基に報告した。

（4）地域たすけあい支援事業の協力員の状況について

生活支援コーディネーターより、地域たすけあい支援事業の協力員の担い手の状況について、資料を基に報告した。

（5）浜松市生活支援体制づくり第1層協議体委員の改選について

生活支援コーディネーターより、浜松市生活支援体制づくり第1層協議体委員の改選に伴う、選任者への依頼方法について共有した。

今後の見通し等

1層協議体ではこれまでの協議内容を整理し、別紙「浜松市生活支援体制づくり第1層協議体の重点目標について」という形で、今後の方向性を提示することができた。次年度は、この方向性に基づき、成果を形作っていきたい。特に、この重点目標を達成していくための具体的な仕組みや取り組みについて協議を深めていけるように努めたい。

